

令和3年度 公立八鹿病院看護専門学校 学校評価結果の報告(公表)

本校は、「保健師助産師看護師法第11条」の看護師養成所の指定を受け、指定規則に則り、運営しています。「看護教育自己評価指針」に基づき、学校評価を平成26年から実施し、教育の質の向上をめざし、学校運営の改善に努めています。

令和4年3月に学校関係者評価委員会を開催いたしました。令和3年度の学校自己評価結果、重点目標の取り組み状況と結果を報告し、改善への示唆をいただきました。

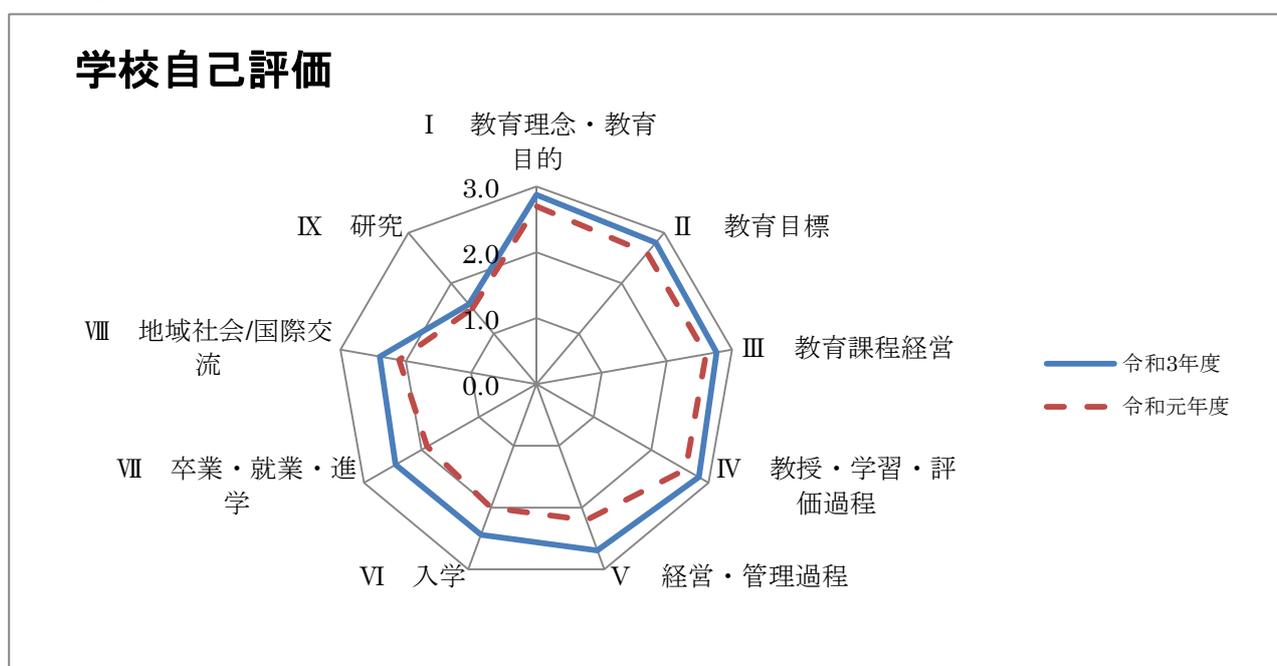
令和3年度の重点目標は以下の通りです。

重点目標1. 教育活動のデータ化を目指し、内容を精選する

重点目標2. 教務便覧を整備し、業務の整備を行なう

重点目標3. 学校について地域社会に説明する

以下は、令和3年度の学校自己評価の結果です。令和3年度はカリキュラムの改正に伴い、全ての項目について評価を行いました。



評価項目	評価概要	令和元 年	令和2 年	令和3 年
I 教育理念・教育目的 (11項目)	社会の変化に対応し人々のニーズを満たし、質の高い看護師の養成に努め、看護師養成所の責任を果たしているかを評価しました。	2.7	2.9	2.9
II 教育目標 (7項目)	教育理念・教育目的と一貫性があり、卒業時の到達目標を明確にして教育内容を精選しているのかを評価しました。	2.6	2.8	2.8
III 教育課程経営 (31項目)	学生に効果的かつ質の高い教育を実践するために、教育課程が適切に運営されているのかを評価しました。	2.6	2.7	2.8
IV 教授・学習・評価過程 (17項目)	授業内容が教育目標と一貫性があるか、また教育内容が妥当なものか学生による授業評価や教員の自己評価が授業の改善につながっているかを評価しました。	2.6	2.8	2.8

V 経営・管理過程 (36項目)	予算計画、事業計画が適切に執行され管理されているか。また、学生への支援が適切に行われているのかを評価しました。	2.2		2.7
VI 入学 (2項目)	教育理念・教育目的に基づいた学生の確保のため、入学選抜等が適切に運用されているのかを評価しました。	2.0		2.4
VII 卒業・就業・進学 (8項目)	卒業時の到達状況を把握と卒業後の活動状況の評価を教育に反映させることができているかを評価しました。	1.9		2.5
VIII 地域社会、国際交流 (10項目)	地域社会への貢献度及び国際交流について評価しました。	2.1	2.9	2.4
IX 研究 (3項目)	教員の研究的姿勢、活動の状況について評価しました。	1.5		1.6

注：令和2年度は重点目標に関連する項目のみ評価致しました

学校関係者評価委員会

【開催日】 令和4年3月23日(水)13:00～(WEB 併用開催)

【出席者】

評価委員

公益社団法人兵庫県看護協会 会長 成田康子氏

立命館大学 教授 長澤麻子氏

公立八鹿病院 看護部長 高階優子氏

卒業生代表 看護師 清水知佳氏 看護師 細見詩保代氏

学校側出席者

学校長： 濟 昭道 事務長： 飯田正吉 教育課長： 坂本真由美

主任： 杉垣ひとみ 田中佳代子 大海貴子

専任教員： 和田美穂 谷口留充 小椋貴文 小谷和大

【評価委員からの意見】

- 評価説明の記載内容には、自己評価点が満点である3.0であるにも関わらず、マイナスな評価が記載されており、整合性に欠ける。取り組み、改善した点を表現することが望ましい。
- 前回の学校関係者評価委員会からデータも集積されパワーアップして頑張っている印象だが、「できていない」との表現が目立つ。
- 重点目標にも挙がっていたためか、評価説明の記載内容に教務便覧の整備遅延が多く記載されていた。
教務便覧を整備すれば全て解決できることなのかどうか吟味が必要である。
- 教育内容では学習ポートフォリオで主体的な学習力の育成、問題解決能力の育成、社会人基礎力の強化などに取り組んでいることが伝わった。
- コロナ禍における医療現場の実際では、実習時間の減少等から、人との接し方が分からない新人看護師等の報告がある。社会は、学生のうちに自ら学ぶ力、自分自身でやっていく力などを身に付けて欲しいと要望している。主体的な学習力の育成、問題解決能力の育成、社会人基礎力の強化などの取り組みは、社会のニーズにマッチしている。

- 主体的な学習力の育成、問題解決能力の育成、社会人基礎力の強化などの取り組みが、学生の成長にどのようにつながっているのかなどの評価もあれば良い。
- 『IX 研究』の自己評価が低いので、主体的な学習力の育成、問題解決能力の育成、社会人基礎力の強化などの現在の取り組みを研究すれば、自己評価も上昇する。
- 学生の確保については、卒業生の活躍のモデルケースを紹介する、当地域の特性を生かした PR を検討する、当地域以外の出身者のその後の活躍を紹介する、実習施設が隣接している強みを PR するなど実践すれば良い。
- 退学者、休学者の背景には、新型コロナウイルス感染症の影響の有無も分析があればよい。
- 新カリキュラムでは、領域横断の科目に『健康保持増進の看護』が設けられている。これからの看護を考えた場合、このようなウェルネス思考は大切である。

【学校関係者評価委員会を終えての取り組み】

- 本校の設置地域は兵庫県の中で最も少子高齢化が進んでいる、国家戦略農業特区に指定されている、地域包括ケアが充実している、などの特性がある。このような地域特性を活かした、魅力ある学校紹介を行い、学生確保に取り組みます。
- 学校評価の報告は、重点目標の達成の有無だけでなく、その取り組み過程の良し悪しを多方面から吟味し、整合性のある報告を目指します。
- 新しいカリキュラムの運用開始とともに、3年後のカリキュラム全体の評価に繋がるよう、学校評価、卒業時の到達目標の到達度評価など様々な評価体系を整えていきます。
- 教育の充実、最善の学校生活の提供を目指すため、組織内での協議を重ね、必要な規程や便覧の整備をすすめます。そのための学習に組織的に取り組みます。
- 教授活動について、研究的視点をもって取り組みます。